

パスパ文字官印の喩母と幺母について

吉池孝一

1. はじめに

『蒙古字韻』巻頭の字母表の中に喩母 ㄩ と称されるものと幺母 ㄩ と称されるものがある。この両字が『蒙古字韻』本文中でどのように使い分けられているかということについては、早くは服部 1946 で確認され¹、その音価は喩母[j]と幺母[ʔj]として再構成された。字形の上でこの区別が明瞭になされている資料は『蒙古字韻』のみのものであるが、碑文の一部に区別があるように見えるものもある。中村 1994 は碑文(羅常培・蔡美彪 1959 中の図版による)・百家姓・元世祖勅書・大元累授臨川郡吳文正公宣勅のパスパ文字の字形と『蒙古字韻』の字形を比較した資料であるが、それに拠って字形を確認すると、奉元路大重陽万寿宮聖旨碑(二)[図版 14、碑 11]中の「以(2例)、易(1例)、奕(1例)」(喩母字)と「伊(1例)、一(1例)」(幺母字)の字形は異なっている。ここに挙げた碑文については僅かな例によって印象を述べたに過ぎず確実なものとは言い難いが、両者を区別する資料が極めて少ないという事情はご理解いただけたものとおもう。小稿では喩母と幺母の区別を持つと推定し得るパスパ文字官印を一つ紹介する²。官印のパスパ文字は篆書体である。官印の篆書体パスパ文字の状況をまとめたものに照那斯圖 1980 があるが、そこでは喩母と幺母の区別はなされていない。

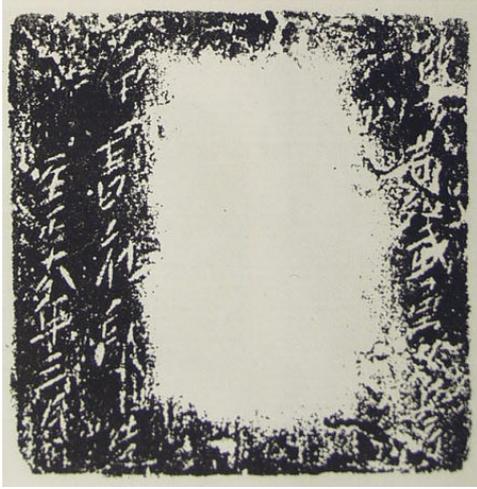
なお、『蒙古字韻』や一部資料での区別が擬古的なものであるのか、それとも当時実在した音系を反映するものであるのか議論の分かれるところであるが、すくなくとも『中原音韻』に類する音系に従っていたと想定される元朝北方の漢人にとっては架空の区別ということになる。

2. 官印

これは羅振玉『隋唐以来官印集存』民国五年(1916年)の三十葉ウラ左に収められた元代パスパ文字官印の背刻拓本と印影である。

¹ 同書 49-50 頁によると、『蒙古字韻』の喩母は、開口二等疑母、開口三等喩母、開口四等喩母・疑母、合口四等喩母からなり、幺母は、開口二等影母、開口四等影母、合口四等影母から成るといふ。

² この資料については 2011. 5. 17 付けで古代文字資料館のサイトで紹介した。



背刻



印影

背刻の内容については『集存』に記述がある。それによると「湖楊等處武勇義兵百戸印」
「中書禮部造至正十八年三月日」とある。この記述が官印の実物の実見によったものかそれとも拓本によったものか、何れであるかは分からない。すくなくとも上の拓本写真によるかぎり「湖口等処武勇口兵口口」「中書礼口造/至正十八年三月日」とは読めそうである。

さて、印影を見るとパスパ文字が四行ある。次のように左行より縦に右に向かって読み進む。パスパ文字は脚注の方式によってローマ字に翻字し³、【】中に推定される漢字を付す。

一行目：γ u 【湖】 -y1(a)η 【陽】 -dhiη 【等】

二行目：č'eu 【處】 -vu 【武】

三行目：yleup 【勇】 -ηi 【義】 -biη 【兵】

四行目：b(a)y 【百】 -γu 【戸】 -y2in 【印】

印文はパスパ文字漢語で「湖陽等處武勇義兵百戸印」と読めるのであるが、このような読みは照那斯圖 1977:70 にみえる。一行目の【陽】と三行目の【勇】の声母は喻母、四行目の【印】の声母は幺母である。それぞれに対応するパスパ文字の y1(a)η と yleup の y1 は喻母字の篆書体、y2in の y2 は幺母字の篆書体とすることができる。三行目の yleup の y1

³ このローマ字翻字は吉池 2005 を修正したものである。ローマ字右の漢字は伝統的な 36 字母。
〈子音〉ㄅ p 幫 ㄆ p' 滂 ㄇ m 明 ㄏ f (ㄏ f1 奉 ㄏ f2 非敷。f1, f2 の区別がない場合は f とする。1 は旧濁音、2 は清音。以下数字を用いるものは同様)、ㄏ v 微 ㄐ j 照知 ㄑ č' 穿徹 ㄒ č 床澄 ㄒ ħ 娘 ㄒ s (ㄒ s1 禪 ㄒ s2 審) ㄒ ž 日 ㄒ j 精 ㄒ c' 清 ㄒ c 從 ㄒ s 心 ㄒ z 邪 ㄒ 影 ㄒ h (ㄒ h1 匣 ㄒ h2 曉) ㄒ γ 匣(合)、ㄒ y (ㄒ y1 喻 ㄒ y2 幺(影)) ㄒ' 魚(喻) ㄒ r ㄒ q 〈半母音〉ㄒ ü ㄒ ĩ 〈母音〉ㄒ u ㄒ i ㄒ /ㄒ é ㄒ e ㄒ o とし、母音 a は() を付して補写する。

はやや潰れているが一行目の y1 と同様の字形と判断し得る。



【陽】

y1



【勇】



【印】

y2

喩母を声母とする二つの漢字が同一のパスパ文字で表記されている点よりみて、喩母と幺母を意図的に区別していたとみてよいであろう。もっとも、四行第一字目の b(a)y 【百】 の韻尾-y の字形が幺母字 y2 と同形となっているところがやや気にかかる。それというのも、パスパ文字楷書体においては、韻尾-y は喩母字 y1 と同形となるのが普通である。さらに広く官印の文字を精査する必要があるだろう。

〈参考文献(発行年順)〉

羅振玉 1916. 『隋唐以来官印集存』 民国五年。

服部四郎 1946. 『元朝秘史の蒙古語を表はす漢字の研究』 東京：文求堂。

羅常培・蔡美彪 1959. 『八思巴字與元代漢語〔資料彙編〕』 北京：科学出版社。

照那斯圖 1977. 「元八思巴字篆書官印輯存」, 『文物資料叢刊 I』 北京：文物出版社, 68-83 頁。

照那斯圖 1980. 「八思巴字篆体字母研究」, 『中国語文』 1980 年第 4 期, 307-309, 269 頁。

中村雅之編 1994. 『パスパ字漢語資料集覧』 富山大学人文学部中国語学研究室内パスパ字研究会。

吉池孝一 2005. 「パスパ文字の字母表」, 『KOTONOHA』 第 37 号, 9-10 頁。

吉池孝一 2011. 古代文字資料館のサイト。

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/museum/p2hf01/p2h15.html>